

清流 ニュース

発行所
八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話 (042) 646-0287 (代)
FAX (042) 644-1164
http://seiryuji.jp/org/

平成二十七年 度 総 祈 願
本 年 度 教 化 誓 願 達 成
佛 立 開 導 日 扇 聖 人 二 生 誕 二 百 年 慶 讚
佛 立 開 花 運 動 第 三 年 度 御 奉 公 成 就 之 御 願
晨 尊 三 十 三 回 御 諱 報 恩 御 奉 公 成 就
役 中 後 継 者 養 成 法 灯 相 続 促 進

八月の御総講日

- 一日 十時 御修行日
- 七日 十時 バースデー総講
日序上人報恩祈念
- 十三日 十時 高祖御命日
- 十七日 十時 開導御命日
- 廿五日 十時 門祖御命日
- 於 清 流 寺
- 十二日 十時 高祖御速夜
- 十五日 十時 開導御速夜
- 廿四日 十時 門祖御速夜
- 三十日 十時 歡尊御命日
- 於 羽 村 別 院

特別行事

- 十六日 中央布教区壮年会
教養大会 於 当 山

会議

- 一日 御総講後 役中会議
- 廿五日 御総講後 教区長会議
- 廿九日 午後二時 参事会

八月三十一日

第十五世講有日晨上人祥月ご命日報恩

「よいお看経」追憶

日晨上人ご遺訓『臍を膝の上に』

本月は、佛立第十五世講有田中日晨上人のご祥月です。日晨上人御三十三回忌前年の報恩ご奉公が展開中です。昭和三十八年に講有位にご晋位された日晨上人は、佛立教学院(専門学校の前身)の院長も兼ねておられました。その折、院長先生の特別講義として「佛立教務道」と題してのご講義を拝聴させていただきました。ご講義の中で、今でも心に深く刻まれていることがあります。

「臍を膝の上に」

それは、表題にも書きましたが、「臍を膝の上に」という教えでした。

日晨上人は、私共新発意(新しい教務)に御看経の正しい姿勢、どのようにしたら背筋が延びるか!ということを具体的にご教示頂き、御看経の時は、「臍を膝の上に乗せるつもり」で、そうすると自然に正しい姿勢を保つことになり、背筋ものびます!とのご教導をいただきました。

第廿四世講有小山日誠上人

が、「よいお看経」をご提唱になられ、その中に「正しい姿勢で」という項目も掲げられております。

この「臍を膝の上に」という文言は、かつて第五支庁報の巻頭言に、わが師日序上人のお許しを頂き掲載させていただきました。

この日晨上人のご慈教を、「座右の銘」としてまもらせていただいております。

十六日(日) 於 当 山
布教区壮年会教養大会
午前十時三十分始
当山住職の講演も
来る十六日(日)午前十時三十分より、当山を会場に、

東京中央布教区壮年会教養大会が開催される。
当日は、布教区管内各寺院の壮年会が一堂に会し、壮年会発展のご祈願をさせて頂き、第二部では、信行体験談の発表、当山住職・長谷川日堯導師の講演を拝聴することになっている。

寺内あげてのご奉公体制をもつて無事円成をめざしているところである。

八月朝参詣強調週間

二日、六日

第三、第四連合担当

八月は、第三、第四連合が担当です。

- 八月二日(日) 国分寺教区
 - 三日(月) 小平教区
 - 四日(火) 東村山教区
 - 五日(水) 小金井教区
 - 六日(木) 昭島教区
- ご弘通誓願達成の為に一人でも多く参詣に気張りましょう。



本月の御妙判

五十展転随喜の功德

一 一滴あつまりて大海となる。一 微塵つもりて須弥山となれり。日蓮が法華経を信じ始めしは日本国には一 一滴一微塵の如し。法華経を二人三人十人、百千萬億人唱へ伝わるほどならば、妙覚の須弥山ともなり、大涅槃の大海ともなるべし。

(撰時抄縮1242)

謗法を見ながらせめず法門をき、て伝へぬ信者何なる

と御教歌下されてあります。御信心上に転教という事があります。法華経随喜功德品に説かれています。五十展転随喜の功德」と申します。

お祖師様は「五十展転随喜ノ功德八十八

年ノ布施ニスグレタリ」とお示しで、この御法を聴聞したら必ず他のひとに伝える功德がいかに深いかという御妙判です。

はじめは一人でも、二人三人と伝わってゆくもので、それを一滴の水一つの塵にたとえて示されたのであります。

最初は日蓮聖人唯一人のみ南〇経と唱えられたわけですが、次第に多くの人が声を同じうして唱えるようになったのは理の当然でありまして、さらにその努力がうけつがれ

で、重ねられてゆくならば、やがてこの国に弘まり、この中心にして一閻浮提に広宣流布する事は疑いのないところであります。

妙覚とは絶対の理を覚り、一切衆生を救済すべき力を具えたことで、妙覚を得たものは即ち仏であります。

涅槃とは滅という意味で、一切の惑を滅し、一切の差別を離れたのが大涅槃を得たという事で、大涅槃を得たものは仏であります。菩薩行によつて将来必ず仏の境界に達

するわけですが、これらの菩薩が須弥山の如く、また大海の如く多くなるならば、この娑婆世界に寂光浄土が実現されるのであります。

「われも唱へ、他にもすゝめる」というのが菩薩行の基本です。自分だけが御法門を聴聞したら、自分だけにとどめておかず、他にお伝えするという事が五十展転という事であることを知って、「五十展転随喜の功德」をつま

せて頂くように心掛ける事が大事大切です。

日序上人御十七回忌報恩ご奉公御有志奉納者氏名(その六十八) (教区順。敬称略。順不同) 二十七年七月十七日現在 合計八九〇名、一、七二三口